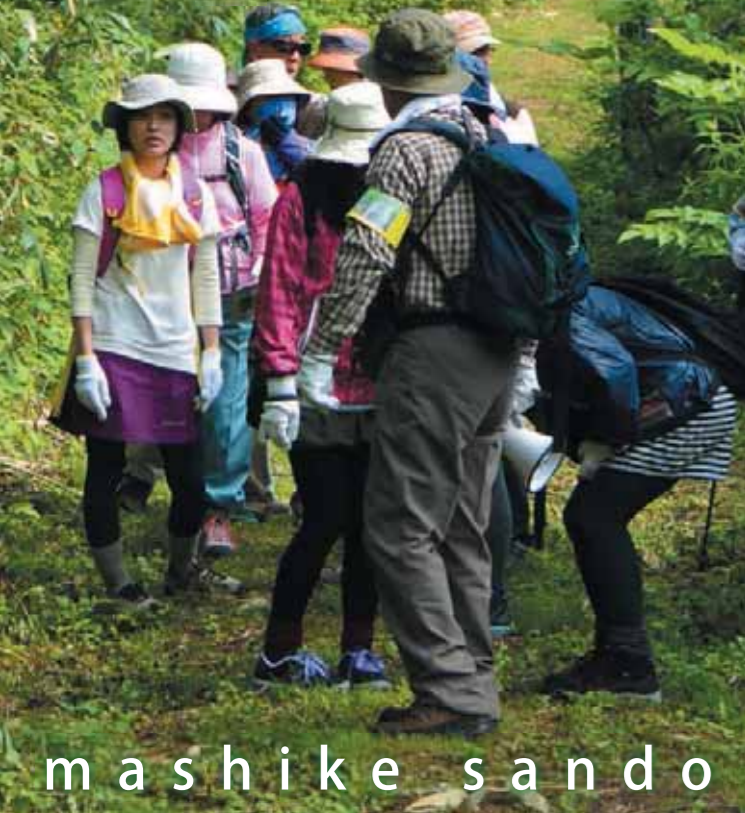


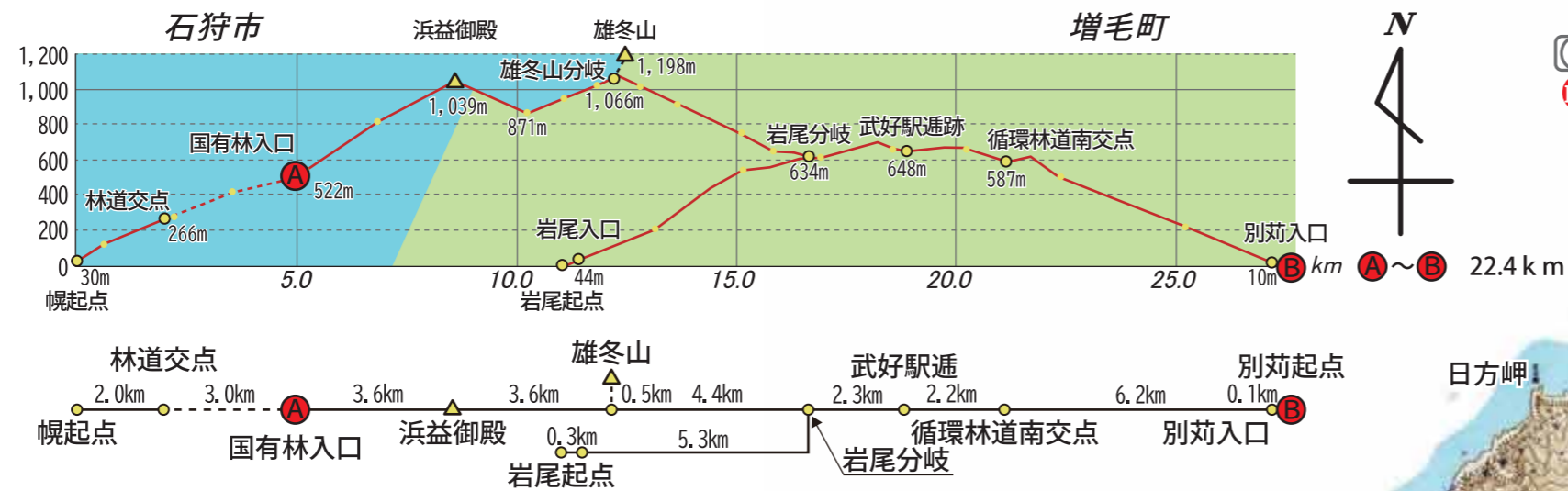
増毛山道

近世の貴重な土木産業遺産



mashike sando

増毛山道標高・距離概要図



歴史遺産と自然環境を守る ルールとマナー

増毛山道は約33kmに及ぶ長大な路線のため、その維持管理には多大な労力と費用を必要としております。林道等とも複雑に交差し、標識や案内板等の整備、原生林の中で標高1200mまでの笹刈、野生動物の生息域、遭難防止等を考慮し一般開放を見合わせております。増毛山道の会等が開催する「体験トレッキング」にお申し込みください。増毛山道は、大部分が暑寒別天売焼尻国立公園を通過しているため、動植物の採取や樹木の伐採、車馬の乗入れ等は法律で禁止されております。

- ◆遭難防止や自然保護のため、山道ルート以外へは立ち入らないでください。
- ◆山道には開拓期の歴史遺産が遺されております。遺産、遺構の破壊と持ち帰りは厳禁です。
- ◆弁当殻や空き缶の投げ捨ては、餌付けされたヒグマを造り出すとても危険な行為です。持ち込んだものは、ゴミも含めて全て持ち帰りましょう。
- ◆山道には、ヒグマ、スズメバチ、マダニ、ウルシ等の危険な動植物が生息(生育)しているの十分注意してください。また、生態系に影響を与えるので、野生動物への餌やりは止めましょう。
- ◆山道には公衆トイレは整備されておりません。携帯トイレを携行し、使用後は一般のごみと同様、必ず持ち帰り、適切に処分してください

山道に今も残る電信柱など



電信柱(深雪のための補強)

増毛山道の脇には今でも木製の柱が残っているのを見ることが出来ますが、これは明治22年に設置された電信線の電柱です。(注: 電信線は電報などをやりとりするためのもので、電話線とはちがいます。)当時、山道が機能していたとはいえず、冬の間は海が荒れて船の往来も滞り雄冬や浜益地域は陸の孤島になってしまっていました。そのため、電信線の開通は住民が強く望むところだったのです。札幌から石狩・厚田・浜益を経て雄冬へと至る電信線の敷設が着工したのは明治21年の9月。その年の9月には札幌・石狩間が開通しました。その後の増毛までの87.26kmの線は山道に沿って設置が進められましたが、海拔千m以上という山の中に電柱を立てるのは非常に困難を極めました。

最終的には明治22年の7月に完成し、その年の9月には増毛でも電信や電報が使用できるようになるのですが、12月には再び不通となってしまいました。雪が解けるのを待って修理に出かけてみると、雪崩のために電柱は跡形もなく谷底へ押し流されていったのです。札幌からの接続を空知経由で迂回する線の新設も検討されましたが、経費が莫大になるため断念。とりあえず冬の間は雪に埋めてしまおうと線路を地上1mまで下げてみましたが、これも効果なく23年の12月には再び不通となってしまいました。結局、札幌から樺戸新道という雨竜方面を通過する道路を経由しての迂回路で電信柱を新たにひくことになり、明治24年に着工。翌年1月から開通し、一年を通じて確実な通信が可能になったのですが、問題もありました。増毛から浜益へ通信するにもわざわざ札幌を中継しなければならず、時間がかかると不満が出たのです。



第7回(H30)増毛中学1年 体験学習武好駅遺案内看板除幕式



香蘭社製の磚子

結局、再び従来の増毛山道沿いの線にスポットが当たり、これを改修して使用することになりました。浜益御殿の山頂付近などは建柱の間隔を狭め、線には太めの鋼線を用い、腕木も特製の頑丈なものに変えました。こうして紆余曲折を経て札幌から石狩・浜益・雄冬を経由する電信線が完成し、毎年補修を行いながら運用するようになったのです。その後、浜益・雄冬間などには海岸沿いに新道ができ、電信線もそちらに移設されて被害は少なくなったと言います。



朽ちた電信柱



雄冬山山頂記念標柱(エビノシツポ)



標高千m付近線路再生風景

凡 例	
	山道公開ルート
	非公開ルート
	周辺林道
	撮影ポイント
	水準点・標石番号(標高) (太枠表示は発見済)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平24情標、第412号)



一等水準点



北海道で一番高い水準点と発見された水準点

北海道に一等水準点は約2400点ありますが、その中で最も高い位置にあるのが石狩管内の浜益御殿(1038m) 頂上付近にあるNo.8462です。平成7年に発見されましたが、当時は増毛山道は復元されておりませんでした。増毛～浜益間の道路はこの増毛山道以外に無く、明治40年頃、17点の一等水準点が設置されましたが、山道近辺の開発が地形上遅れたこともあり、水準点そのものも忘れられておりました。この度約160年を経て復元された山道に10点(内1点破損回収)の水準点を発見することができました。往時、三河産花崗岩標石を北海道まで運び、1本139kgを人力で山中まで荷揚げして埋設し、最高精度の観測を成し遂げた汗と人知の歴史遺産を体験下さい。

ルート番号標識



- ◆別茹入口～岩尾入口間16.1kmは160m毎にB(I) 1～100の標識を設置
- ◆国有林入口～岩尾分岐間11.6kmは200m毎にH(IB) 1～58の標識を設置

標高860mより望む日本海

幌灯台